

海 (かいし) 市 No. 19

● 詩

02 前田 勉 鬼女の憂い (2)

06 横山 仁 生活の柄 (14)

● エッセイ

08 細部俊作 蝶と出会った路 (2)

12 佐藤ただし 水田とツバメ (17)

15 横山 仁 雑記 (19)

鬼女の憂い（2）

前田 勉

舞はすではじまっていた

地唄の抑揚が

三味線の音とともに

気だるく

周りを覆い

かすかな衣擦れの音が

眉間を寄せ憂う女

に

まつわりついて

舞台の床を這っている

唄のほんのわずかな呼吸の合間に
ひとつ

ふたつ

間合いを取るように

乾いたしわぶきが前の方から届いた

義父ちちの声音こゑに似ていた

そう思ったのは何故だろう

あの日

義父は

娘の最後の舞いを

初めて観た

なぜかそれまで

頑なに観ようとしなかった

そんな義父が

今

ここに居るはずはない

舞はもう終わろうとしている

左に傾けた顔をゆっくりと直し

上手の方へ

頼りなく右手をかざして背を向けると

鬢びんのほつれ毛を揺らしながら

裾さばきも鮮やかに

くるり

と

振り向く

女は

「かなわ金輪」の

鬼

と化していた

生活の柄(14)

横山 仁

精算が終わって

買ったものをレジ袋に入れる

そのとき

違うものを買ったことに気づく

並んでおかれていたとしても

目は見えていたはずだ

目から手への

回路が切れていたか

いつのまにか
死は
旧友のように
となりに 座っていた

蝶と出会った路 (二)

細部 俊作

□三ツ石山で

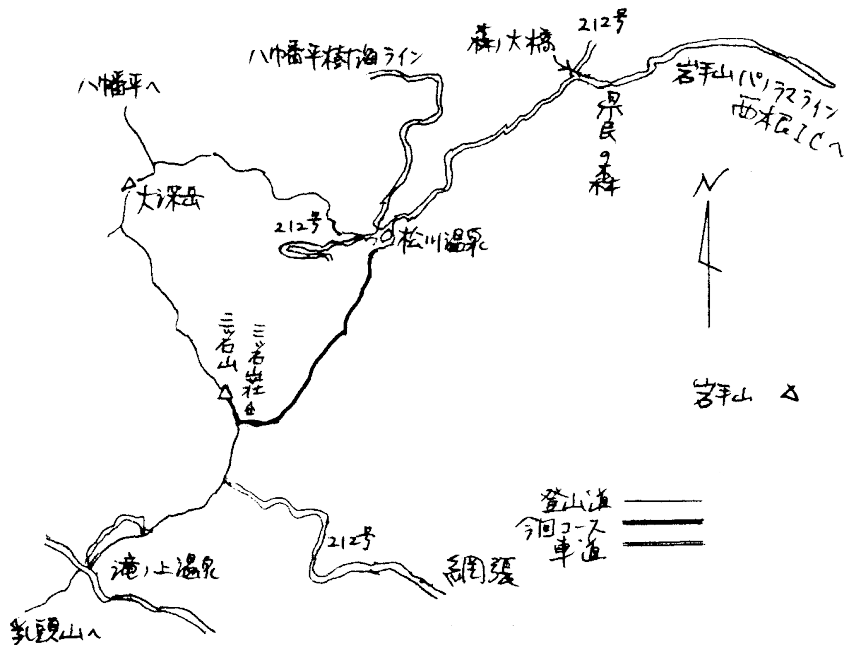
八月下旬に、岩手山の北西にある松川温泉口から三ツ石山へ登った。盛岡から高速に乗り西根で下り、そこから岩手山パノラマラインを西進した。県民の森、森ノ大橋経由で県道二二二号に入り、松川温泉の標示付近の右側に駐車場がある。登山口は駐車場前の道路を渡って松川荘方面へ下り、キャンプ場を抜けて橋を渡るとすぐ右側にある。

松川温泉は、三ツ石山、大深岳、源太ヶ岳を結ぶトライアングル形の周回コースの起点に当たる。三軒の温泉旅館があるので、遠くから来る人はここに泊ってゆっくり周遊できる。この周回コースを二度巡ったことがあった。一度は当時赴任先の横手発、二度目は

秋田の自宅発のそれぞれ日帰りだったが、その八時間の山旅は満足を与えてくれた。その周回路からさらに北へ足を延ばせば八幡平へ、西には乳頭山と乳頭温泉郷、さらに秋田駒がある。南の網張温泉泊を入れれば岩手山へだって行ける。この一帯を、日数をとってゆっくり回る山旅をいつかしてみたいとも思うが、結局は秋田市内からの日帰りで収めてしまっている。

登り始めの階段の急登は登りごたえがあるが、間もなく終わる。そこから緩やかで広めのコースが西南方向へ向かっている。左方に頂上が雲に隠れた岩手山と連なる山々を眺めつつ歩いて行く。ネマガリダケの葉やダケカンバの白い幹に日が当たって、それが辺りに光を散らしている。このコースの中で私が気に入っている場所だ。しばし、うっとりしながらまた歩き始める。

路の片側のヤブが刈り払われ、見通しも風通しもよくなったようだ。こうして少しでも人の手が入っていると、ぐっと安心感が増す。作業してくれた地元の人には何度でもありがとうと言いたい。



ブナ林の中には赤松も混じっている。所どころアオモリトドマツ（別名：オオシラビソ）の脇を通ると芳しい香りがしたので、胸いっぱいその空気を吸い込む。こんな時に樹林帯を歩くよさを感じる。それに風の強い日などは樹々が風よけになってくれる。いつかの晩秋、風にさらされた山頂から下ってきて、この樹林帯の中に潜り込んでほっと一息ついたことがあった。やがて路傍をアキノキリンソウ、リンドウ、オオカメノキなどが彩るようになってきた。

大松倉山への分岐を経て間もなく、登山口から一時間半足らずで三ツ石山荘に着いた。山荘の階段を上ってデツキを進むと、数人の若い男女が笑い合っていた。空といい、彼らといい、その明るさにこちらまでも心地よくなる。

山荘傍らの沼の手前で左に分かれる路が林の奥に消えている。これは雲石の滝ノ上温泉に通じる路で、秋田方面から三ツ石山に登る場合の最短コースだ。数年前に、甥を連れて滝ノ上温泉を起点に乳頭山まで往復した後で、この登山口を探し、駐車場から川の上流方向にある橋を渡った先に見つけたことがあった。滝



2019.8.27 三ツ石山

ノ上温泉の方は営業しているようには見えなかった。駐車場もトイレも新しいが、車は私の一台だけだったので、その日は平日だったが、休祝日にどのくらい利用されているものか、興味があるが心細くもあって、このコースは未踏のまま残してある。

山荘から登りに入る。足元にはアザミ、トラノオ、トウゲブキ。山頂直下に咲く花を見ては、その名を思い出し、挨拶をするように口に出して登る。すると白化した木の表面にひと際鮮やかな赤茶色の翅を広げて蝶が止まっていた。目玉模様を左右の翅に付けている。初めて見る蝶だ。じつと動かないのは、日差しで温まった木の表面で休んでいるのだろうか。カメラを取り出してシャッターボタンを押した。

すぐに三ツ石山頂が間近に見えた。振り返ると岩手山の頂からすっかり雲が払われ、まったくの青空だ。風も強くなったので、長袖の上に半袖Tシャツを重ね着し、岩陰を探し当てて昼食タイムとした。腰ほどの高さの灌木帯が広がっている中を北の畚岳^{もこだけ}方面へ路が伸びている。平日のせいか人影は稀だった。天上大

風ってこんなことだったっけか。それから思いは移り、やがてこの先、自分を閉じる時、瞼の裏側に、おだやかに晴れた日、岩や草花が広がるなららかな山上で、見えない鳥のさえずりを聞いているだろうか、などと。それは願望だナ。そんなふうに穏やかにいけたらいい。いつかも、和賀岳に近いお花畑を見ながら、同じような思いをもったことがあった。

下山後、駐車場でザックを下ろしていると、手洗い場の方から隣の車の方に来た若者が何か話したような気配。お疲れさんと声をかけると、三ツ石山から大深岳を巡ってきたのだそうだ。そして、今度の休日には飯豊山に行くことにしていて、今日はその足慣らしだったという。自分が行ったことがないけど晴れるといいなア、という、そうなんですよオと顔をくしゃくしゃにして笑ってくれた。

〔山日記〕二〇一九年八月から

*

1 私が見た蝶は「クジャクチョウ（和名 孔雀蝶）」

だった。

・クジャクの羽を思わせるような目玉模様が大変印象的なタテハチョウ。長野県や北海道などではふつうにみられる。分布・北海道、本州。アザミやマツムシソウなど高原にもよくやってくる。大きさは二六〜三二mm。（ときめくチョウ図鑑）山と溪谷社）

・かつては非常に個体数が多かったが、近年、農地の環境変化などにより減少傾向にある。（日本のチョウ）誠文堂新光社）

2 ヘルマン・ヘッセの『人は成熟するにつれ若くなる』(草思社)という本に収められたエッセーの中に、「越冬したクジャクチョウが陽光を浴びて高貴なビロードの羽を開いたり閉じたり(する)春がやってきた」という文を見た。スイスにいたヘッセがこのエッセー「春の散歩」を書き発表したのは一九二〇年。今から百年遡った闇の向こうのスイスの野にヘッセとクジャクチョウがいたと思うと、幻灯機が映す像を見るような感じがした。

水田とツバメ（一七）

佐藤 ただし

同窓生・F

今年の冬はもう雪は降らないだろうと勝手に思っていたが、朝になって窓のカーテンを開けると、隣家の屋根や遠くに連なる山の杉の木にも白く雪が付き、視界を遮るように降る様を、珍しいものを見るように見ている。

いつものように朝食をとろうと、椅子に腰を下ろして間もなく、上着のポケットに入れていたスマホに着信があった。それは知り合いのSからの短いメールで、今朝方Fが亡くなったという内容だった。うすうす予感はしていたが、できればずっと来て欲しくなかった知らせが、現実のものになってしまったことに体が沈

んでいった。

Fは私と同じ年で、もうすぐ六四歳になるはずだった。まだまだ生きていたかと思うが、病魔はあまにも早く彼の命を奪い去ってしまった。

彼とは共に地域の消防団に入っていたこともあり、時々顔を合わせて酒を飲むこともあった。特に昨年三月までの四年間は私が分団長で彼が副分団長という役職で、よく連絡を取り合い、助けてもらっていた。

一昨年の七月、私は翌年の三月に任期が終わるのを機に役職を退くことにし、その旨を彼に伝えると、覚悟を決めたように後任を引き受けてくれ、十一月の役員会で彼が新分団長になることが決まった。

しかし、それから二ヶ月もしないうちに彼から電話があり、ここ数年、胃の検査をしていたが、今回、胃ではなく膵臓に初期のがんが見つかり、手術をするようになったという知らせだった。

間もなく組織の変更を届ける時期だが、手術のことを考えれば、術後はゆっくり休むべきだし、私が引き続きやるか、他の人にやってもらうかだが、この組織をスムーズに継続してゆくには、いつまでも私がやる

べきではないと思っていたし、肩から降ろした荷をもう一度背負う気力も湧かないまま、役員会を開いた。

病名のこともあり、多くの団員には知らせずに、数名で集まり協議をしたが、代わりにやる人もなく、結局は予定通りFがやることになり、役職変更の書類を提出した。

手術前に消防の書類を彼の家に持って行った時、彼の奥さんから、「うちのお父さん（私の夫）に出来るかしら」と言われ、決まったこととはいえ、その場を取り繕うことしかできなかった。

手術は昨年三月に行われた。入院中に見舞いに行った時は、検査や手術で病院にいた間に体重が五キロほど減ったと腹の周りをさすりながら話していたが、元々仕事で鍛えた丈夫な体のせいか、言葉には張りがあり、気力も充実しているようで、大きな手術をしたとは思えないほど元気でほっとした。

その後の経過も順調でひと月ほどで退院し、あとは通院しながら治療するということだったが、私は彼に後任を任せたことで、安否がずっと気になっていた。

術後の経過について、詳しいことはわからないが、

それから数ヶ月して、抗がん剤の薬が効いていないようなので薬を変えたという話を聞き、その影響が髪の毛がだいぶ抜けていたと、彼と会った人から聞いた。体調も思わしくなかったと思うが、町内の敬老会などの催し物に呼ばれば、顔を出してくれていたようだ。そして年も押し迫った頃、がんが転移して脳梗塞のような状態になり、立つて歩くことが出来ず、病院に再入院したとSから電話で知らされた。家族は病院の医師からあと一ヶ月くらいしか持たないと言われたという。その翌日から私は毎朝、地元紙の死亡広告欄を見るようになり、Fの名前が載っていないことを願った。

年が変わり、一月の末に病院に見舞った時は四人部屋の病室に横になっていた。看護師に案内されて病室に入って行った時は、目を私のほうに向けたが、言葉を発することが出来ないのか、無言のままだった。髪の毛は短く刈られ、顔色は前と変わらないように見えたが、去年見舞った時に比べると顔がだいぶ小さくなったように見えた。

カーテンで仕切られたベッドに横たわり、Fはじつと天井を見ていた。私はどう話しかけたらいいのかわ

からず、じつとしていた。

手術後に消防団の仕事を彼に引き継がせ、様々な行事に出席しなければならず、つらい思いをさせてしまったことをFに伝えると、彼は眼をこちらに向け、口元を真一文字にして、顔を小さく横に振った。

それからまたしばらく沈黙が続き、ふと彼の顔を見ると、目を閉じて眠りに落ちたところだった。小さくなった彼の寝顔をしばらく見ていた。生きているうちは、自分のなすべき役目を果たしてきた顔がそこにあった。私は立ち上がって病室を出た。

それから一週間後に彼は亡くなり、五日後に葬儀が行われた。Fが亡くなった日に降った雪は道路の脇に寄せられ、日差しは穏やかだった。会場には親族や地域の人、消防関係者、中学の同窓生など多くの人が出席していた。Sも会葬に来ていた。彼からFの病状のことや、消防団のことなどを聞いた。火葬の際に、分団長になってから一度も袖を通すことが無かった制服を彼に着せたこと、彼がFの後を引き継ぐことになることを知った。

会葬者の椅子に腰かけ、祭壇の花に囲まれた遺影を

見ると、白いTシャツを着た五十代の頃の笑顔のFがそこにいた。

間もなく葬儀が始まり、住職の読経とともに葬儀が進んでいった。Fと共によく一緒に仕事をしたという同業の社長が弔辞を読んだ。彼と三十キロメートルにも及ぶ水道管の敷設工事をしたこと。この工事によって地域の人達が今後でも安心して暮らせること。無理難題をお願いしても、「分かった」とすぐに引き受けてくれ、どんどん仕事を形にしていくなりに溢れていたこと。そしてFの二人の息子が会社の後を継いでいるから何も心配はいらないと語った。

会社や家庭や地域の役割を黙々と果たして逝ったF。葬儀が終了して会場を出る際に、会葬者を見送る列の後ろにいたFの奥さんに、「ありがとうございました」とひとこと言われた時、病気で大変な時期に重責を押し付けたことを恨んでいるだろうと思っただけに、私は少し気持ちが楽になった。

雑記 (19)

横山 仁

26日夜に、北朝鮮との国境近くにある米軍基地で、緊急事態を告げるサイレンが鳴り響き、兵士たちは服を着替えて集合した。

しかし、その後にサイレンは誤報であったことが分かり、集まった兵士たちは夜中に寝込みを叩き起こされたことを激怒したという。

北朝鮮がクリスマス・プレゼントにミサイルを発射するとの観測が広がり、米軍が監視を強めていた中でこの相次ぐ誤報となる。

同様の誤報が異なる場所で発生したとなると、北朝鮮の攻撃があったとして、偽旗報道が仕込まれていたと考えざるを得ない。

トランプはクリスマス前にビーガン代表を韓国に派遣し、「プレゼントは美しい花瓶かもしれない」と、北との交渉に期待を示していた。

9.11のアメリカで、テレビ報道が先で、その後、

飛行機がツインタワーにつつこんだという笑い話があったが、似たような報道があったようだ。NHKのフェイクニュースは、今に始まったことではないが。

以下、「放告知」の野崎晃市さんの「令和01/12/29(日) NHK北朝鮮ミサイル誤報の怪」から。

(引用開始)

存続の危機にある在韓米軍

NHKが27日0時に北朝鮮のミサイルが発射との誤報を出したが、その直前に在韓米軍基地でも緊急事態の誤報があった(記事)。

また、トランプは日韓米軍の費用負担増大を求めているが、日韓政府ともに難色を示しており、撤退を求める声も高まっている。

そのため、米朝の和平交渉を快く思わない勢力が、情報工作員を使って緊張を演出するため、偽の報道をさせた可能性が高いただろう。

(引用終わり)

*

一、二年前スーパーで見つけたのが、パンに塗るあんこだった。こんなものも出ているのかと思って、たまたま買ったりしていたが、昨年末に放映された「孤独のグルメ大晦日スペシャル」で名古屋に降りた井之頭五郎さんが「珈琲迦カラス」で食べたのは「あんトースト」というものだった。そして名古屋発とっていた。

あんこといえば、保坂英世さんの「四季彩」11号に盛岡の福田パンが紹介されていて、名物は「あんバター」。『何度でも食べたい。あんこの本』（文春文庫、

2018年）によれば、平成20年5月にバターの値段が上がったときは、「あんマーガリン」になったという。ちなみに、現社長の祖父は、「金がなく大学に行けなかったので、賢治の紹介で盛岡高等農林学校（現・岩手大学農学部）の教授の手伝いに行き、そこで発酵について学んだようです。その後、京都のイーストメーカーに就職し、盛岡に戻ってパン屋を興しました」という。また、秋田では、角館の「唐土庵いさみやのもろこしあん」が「穆く崩れる小豆のトリュフ」として紹介されている。

マーガリンとシヨートニングは絶対取るなどというのは、三石巖氏。以下、『医学常識はウソだらけ一分子生物学が明かす「生命の法則」』（クレスト社、平成9年）より。

(引用開始)

マーガリンやシヨートニングが有害だという理由は、単にそれが酸化しやすい脂肪を使っている点ばかりではない。これらの代用食品は、もっと重大な危険

をはらんでいるのである。

マーガリンやショートニングの原料となる魚の脂肪や植物油は、常温では液体になっている。したがって、そのままではバターやマーガリンの代用品にすることができない。そこで水素を添加して融点を上げ、常温でも固まるようにしたのがマーガリンとショートニングである。

ここで問題になるのは、水素を添加したときに分子の立体形が変わってしまう点である。(中略)

いずれにしても、マーガリンやショートニングはきわめて危険な食品である。

クローン病の原因として注目されて以来、ドイツではとくにマーガリンの使用をやめている。

(引用終わり)

アメリカでもマーガリンの使用が禁止されたとき。ときおり買っていたパンはイタリアントの無添加パンだったが、ある日見たらマーガリン添加とあり、以後買うことを止めた。イオンの「パン・ド・ミ」は、マーガリンの代わりにオリブオイルをつかい、トラ

ンス脂肪酸○(ゼロ)をうたっている。コーシーなどに入れるミルケ風の植物油も、さいきんトランス脂肪酸○(ゼロ)をうたっているものが増えてきたようだ。

農水省のホームページでは、「トランス脂肪酸を多くとると、血液中のLDLコレステロールが増加し、HDLコレステロールが減少することが示されています。トランス脂肪酸を多くとりつづけると、冠動脈性心疾患のリスクを高めることも示されています。さらに詳しい解説は[こちら](#)をご覧ください。」と説明されている。(更新日2018年1月25日)

また、「マーガリンの「トランス脂肪酸」は日本人にとって大問題なのか」(松浦達也、2018.02.11 16:00 NEWS ポストセブン)は、つぎのように書いている。

(引用開始)

今年の6月からアメリカでトランス脂肪酸の食品添加が禁止される。これを受けて明治や雪印メグミルクなど、大手乳業メーカーが続々と「トランス脂肪酸フリー」に舵を切っている。

トランス脂肪酸はマーガリンの固さの調整に使われる「部分水素添加油脂」に多く含まれる成分で、液体の植物油などを固める加工過程等で生成される。摂取しすぎると心臓疾患などのリスクを高めると言われているが、異論もある。

(引用終わり)

見出しからも分かるように、「食文化に詳しい編集・ライター」の松浦氏は、マーガリンを摂っても大したことはないというふうに結論づけている。

けっきょく、アメリカが禁止しなければ、日本では添加を続けていたことだろうな。また、化粧品が無着色などをうたっているときでも、秋田の食品はどぎつい人工着色料を使い続けている。

*

宮沢賢治に関して、おもしろいブログをみつけた
「みちのくの山野草」—みちのく花巻の野面から発信
—) (<https://blog.goo.ne.jp/suzukishuhoku>)。ブログ

主は、鈴木守という人。
「[批判精神はいずこへ？](#)」 2020-01-02」では、つぎのように書いている。

(引用開始)

鈴木 たしかに、Y氏は2010年出版の『デクノボー 宮澤賢治の叫び』において、

とにかく光太郎はヒデリと直したわけでしょう。ヒデリの言葉を削ってね。結局、光太郎がやったことですね。

『デクノボー 宮澤賢治の叫び』(山折哲雄×吉田司著、朝日新聞出版、2010年8月30日) 232p)と書いていて、一方的に「光太郎はヒデリと直した」と決めつけていた。ところが、それから約9年経った2019年に出版した今回の『ぼくはヒドリと書いた。宮沢賢治』でもまた、

高村光太郎がなぜ「ヒデリ」という風書き直したかという問題に切り込んであるわけです。

『ぼくはヒドリと書いた。宮沢賢治』(山折哲雄・網澤満昭著、海風社、2019年9月15日) 16p)

というように、相変わらず同じような決めつけ方をしているのか、残念だな。

吉田 その上Y氏は今回もまた、和田氏の論文「宮沢賢治の『ヒドリ』と高村光太郎の『ヒヅリ』」を高く評価し、いいかこも見てくれ、ほら、

なぜ高村光太郎が「ヒドリ」を「ヒヅリ」と書き誤ったのか。あるいは、知ったうえで、承知のうえで書いたのかという秘密にまで迫ろうとしている。

〈同 19p〉

と、ここでもまた光太郎は「ヒドリ」を「ヒヅリ」と書き誤ったと決めつけ、しかも「なぜ……書き誤ったのか」というように、光太郎を非難している。

荒木 でもさ、たしかにあの下根子桜の「賢治詩碑」には「ヒヅリ」と刻されているが、それは光太郎が間違えたというわけではなく、その原稿が間違っていたという可能性だってあるべ。

吉田 そりゃあもちるん。しかし残念ながら、そのことをY氏自身が調べてみたと言っているような箇所は見つからない。

鈴木 そうか、だから吉田はさつき、

(Y氏が) また繰り返し論じていることを僕らは見過ごしてはならない。

と言ったわけだ。

荒木 あっ、そういうことな。同じことを繰り返ししているなんて、そんなことがいつまでも許されるんですか、と。

鈴木 まして、以前にも触れたように、例えば昭和9年9月21日付『岩手日報』の記事を見てみればそう決めつけられないということは直ぐ判るのだから。

(引用終わり)

また、宮城県図書館についても書いています。

(引用開始)

この度私は、「宮城県図書館」から名譽な称号「非専門家」を賜った。なかなか頂けない称号だと思うので感謝したい。

願末を少しでも以下に紹介したい。

① 私の弟は宮城県の大崎市に住んでいて、2018年

10月に私の『本統の賢治と本当の露』を宮城図書館に寄贈しようと思って弟が申し出た。

② ところが今年になってそれを拒否されたという連絡が同館からあり、その理由は弟によれば、「自費出版だからというような話だった」ということであった。

③ そこで私は、その理由を直接教えてもらいたかったので、去る2019年12月6日同館を訪れて教えてもらった。

④ すると、それは、拙著『本統の賢治と本当の露』が「非専門家の調査研究・報告書」だからである、という回答であった。

ちなみに、それは、同館の「宮城県図書館寄贈資料の受付に関するガイドライン」(平成29年4月1日施行)の次の第3が適用されたことになる。(引用終わり)

紹介されている上記の「ガイドライン」という資料によれば、宮城県図書館では自費出版などは受け入れをしていないようだ。鈴木氏が宮城県の人であれば受

け入れたのか不明だが、地元の出版物を集めないで、なにか県立図書館なのだろうか。

この『本統の賢治と本当の露』はどのような内容なのかをブログから紹介する。

(引用開始)

本書は、「仮説検証型研究」という手法によって、「羅須地人協会時代」を中心にして、この約10年間をかけて研究し続けてきたことをまとめたものである。そして本書出版の主な狙いは次の二つである。

1 創られた賢治ではなくて本統(本当)の賢治を、もうそろそろ私たちの手に取り戻すこと。

例えば、賢治は「ヒデリノトキニ涙ヲ流サナカッタ」し「寒サノ夏ニオロオロ歩ケナカッタ」ことを実証できた。だからこそ、賢治はそんなことを悔い、「サウイフモノニワタシハナリタイ」と手帳に書いたのだと言える。

2 高瀬露に着せられた濡れ衣を少しでも晴らすこ

と。

賢治がいろいろと助けてもらった女性・高瀬露が、客観的な根拠もなしに〈悪女〉の濡れ衣を着せられているということを実証できた。そこで、その理不尽な実態を読者に知ってもらうこと（賢治もまたそれをひたすら願っているはずだ）によって露の濡れ衣を晴らし、尊厳を回復したい。

(引用終わり)

「ヒドリ」と「ヒデリ」については、鈴木氏も入沢康夫著『「ヒドリ」か、「ヒデリ」か—宮沢賢治「雨ニモ負ケズ」中の一語をめぐる』(書肆山田、2010)をとりあげ、「ヒデリ」と納得できると評価している。

「komayumi」17号(2012.3)では、照内きよみ氏が、平澤信一著『宮沢賢治《遷移》の詩学』(蒼丘書林、2008)と入沢康夫氏の著作をとりあげ、「『ヒドリ—ヒデリ』論争はこの二著に言い尽くされているのではないかと思われる。」と記している。

鈴木氏はまた、宮沢賢治学会についても書いている

が、省略。

*

昨年12月8日、あきた文学資料館主催の座談会「回顧 平成秋田の文学」が開かれ、われらが吉田慶子・秋田県現代詩人協会会長も出席されたが、資料の文章をみてわらってしまった。

《平成という時代に、人々は「人間の在り方」や「人生」を振り返り、「自然・環境」を考え、「生命」の尊さ・はかなさに思いを致し、そして「未来」あるいは「若い」や「死」をみつめ、さらに他者とながる「ことば」の危うさを知った。考えてみると、それらはすべて「文学」のテーマではないか。悲観的に語られること多い平成。しかし、「文学」を生み出す契機はあちらこちらに散らばっていたといえるだろう。》

おいおい、日本人(秋田人に限ったとしても)は、平成になるまで、「人間の在り方」や「人生」を振り

返ることはなかったんか？ 『生命』の尊さ・はかなさに思いを致すことはなかったんか？

*

「笑う門には福来る」のまえに、「人を呪わば穴二つ」という言葉がつくらしい。小学館の百科事典『ジャポニカ』によれば、この二つというのは、墓穴のことのようだ。

《人を＝呪（のろ）わば [=折らば] 穴二つ（「人を呪えば身を呪う」とも）他人を呪って殺そうと墓穴を掘る者は、その報いで自分のための墓穴も掘らなければならなくなる。人に害を与えれば結局自分も同じように害をうけることのだとえ。》

このことを、「放知技」の鍼灸指圧師のハリー今村さんは解説している。2019/12/31 (Tue)

(引用開始)

「昔から、人を呪わば穴二つ、笑う門には福来る、と

いう諺が伝えられている。昔の人は感情の振幅に伴い細胞レベルでの電気的変化が起こる事など知る由も無かったが、人を呪えば呪いの念で相手を殺せるかもしれないが、その呪いのネガティブな感情が自分の細胞の電圧を低下させ、結果として自分で自分の首をしめる、つまり自らを殺めてしまう事が薄々とわかっていたのだろう。

また昔の人は笑いか細胞の電圧を高めて健康状態を引き上げる事も薄々気がついていたらと見受けられる」
(引用終わり)

何で読んだのか忘れたが、人間の脳は自分と他人を区別できないから、人を呪うことは、自分を呪うことだということだった。ハリーさんは、このことを細胞レベルで説明したのだろう。

*

アランゾンの書評で、前九年の役とか後三年の役とかを使っていないのいい、というようなコメントが

あった。その本では、後三年合戦とか表記していた。以前、なんとかの乱というのは、体制側からみたものでおかしい、ときいたことがあり、その類いと思ったが、放送大学の「文学・芸術・武道にみる日本文化」(19)の講師は、年表で後三年の役と説明していたので、かならずしも学会では役・合戦は統一されていないのかもしれない。小学館の『日本歴史大事典』(2000)や吉川弘文館の『国史大辞典』(1997)では役をつかっているし、ウイキペディアでは、「後三年合戦ともいう」となっている。ちなみに「役」とは、「古くは『えだち』と読み、中央での大規模な造営などに王権によって地方から徴収された力役をさす。(中略)『役』は人民を徴収することから戦の意味にも使われる」(日本歴史大事典)とある。こだわることはないのかもしれないが、絵巻は「後三年合戦絵巻」となっている。

*

斉藤淳 @junsaito0529 さんのツイッターより。

(2020年3月3日)

(引用開始)

米国大学勤務時代の話。サブ・プライム・ローンが焦げ付き始め、リーマンショックを迎えようとしているさなか、自分は連邦政府から1500ドルの小切手を受け取った。需要を喚起しようとするなりふり構わぬ姿勢に感銘を受けた。さて、日本国政府はこの経済危機にどう対応してくれる。コロナ増税か(笑)
(引用終わり)

「財政再建への固執こそ『国家的大リスク』」
というのは「うずらのブログ」20200305。

《最近の経営者の口癖である“人手不足”とやらは、「低賃金・不安定雇用を押し付けても黙って働かざるを得ない奴隷不足」に過ぎず、それを証拠に、勤労世帯の収入や最低賃金はほとんど上がっていないではないか?》

くたばれ財務省、増税賛成・緊縮財政派のクズ学者ども！

あとがき

◆冬の間、秋田市内の岩見川や太平川などの川沿いを川瀬の音を聞きながら歩いた。堤防や橋の上から川を覗くと、冬季のせいか水が透明で砂や砂利が堆積しているように見えた。日本の各地で毎年のように発生する洪水を思い起こすと、こうした河川の整備を急ぐ必要があると思った。(T)

◆米スタンフォード大学フーヴァー研究所に、戦前、警視庁特別高等警察部特高第一課警部だった矢野豊次郎から入手した「矢野文書」と称されるものがあり、なかに「赤露より秘密命令書」(1926.5)や「日本共産党のコミンテルンに宛てた報告」(1938 上半期)などがあるという。(J)

◆12月末、正月連休用にと300ピースのジグソーパズルを買った。モネの「日傘の女」。後日、毎日休日の身が正月連休でもないだろうと気づいてちょっと焦った。純粹にそう思って買っただけに、これはあの兆候かと不安に。そういえばあの時も…。パズルは完成したが、私自身のピース(断片)はあちらこちらに散乱してゆくばかりのようで怖い…。(B)

◆ラジオからバイカオウレンという花の話題が聞こえてきた。高知県佐川市にある牧野公園内に群生するが、2月の寒〜い今時から咲き始めるのだと。公園名は植物学者牧野富太郎博士の出生地であることに因んでいる。図鑑の写真の小さな花をこっちの山中で見た気がするが、本州(福島以南)、四国に分布とあったからきっと別物なのだろう。今年はどうな山歩きができるだろう。新型コロナ……早く収まってほしい。(S)

「海市」 第19号

2020年3月11日発行

発行 書肆えん

秋田市新屋松美町5-6 横山方